

アカシア夜話 アカシアンナイト  
第7話

## 山口信夫先輩を追悼して

平成22年9月14日、前日本商工会議所会頭の山口信夫先輩(33回)が心不全のため逝去されました。山口先輩は母校卒業後、陸軍予科士官学校を経て陸軍士官学校に進まれ、昭和20年(1945年)6月に同校を首席で卒業、少尉として平壤に赴任後すぐに終戦を迎え、タタール共和国での抑留生活を経験されました。昭和23年(1948年)8月に帰国後、東京商科大学(現一橋大学)に進まれ、昭和27年(1952年)旭化成工業(株)に入社。旭化成中興の祖と言われた宮崎輝社長のもとで、秘書室長、総務部長を歴任された後、住宅事業の推進のため住宅事業部長、旭化成ホームズ(株)や旭化成建材(株)の社長などを歴任されました。昭和56年(1981年)6月に旭化成工業(株)代表取締役副社長、平成4年(1992年)4月に同社代表取締役会長に就任。平成13年(2001年)7月、日本商工会議所会頭に推挙され、アカシア会員として永野重雄さん(9回)に次ぐ二人目の会頭として、平成19年(2007年)11月の名誉会頭就任まで6年あまりの間、日本経済界の牽引に当たられました。

平成20年2月25日  
旭化成応接室にて

## 追悼座談会

山口先輩の偉業を振り返るため、石井泰行(43回)アカシア会会長(賀茂鶴酒造(株)代表取締役会長)と児玉幸治(43回)前東京アカシア会会長(元通産省事務次官)のお二人で、山口先輩に因むエピソードを語っていただきました。

## ○陸軍士官学校～シベリア抑留

児玉：山口さんは附属中学の5年生から士官学校に行かれたわけだよな。普通は幼年学校から、要するにプロの軍人が上になっていくのだよ。それなのに横のほうから出てきたトウシロウがね、士官学校へ入ってきて首席になった訳だから、プロのほうから見ると



広島高師附中時代(昭和15年頃)下が山口氏



陸軍士官学校卒業前 昭和20年

ね、抵抗感はある。あるけれども、やっぱり首席は首席だろう。そして、そういう事に対する敬意というのは、軍隊だからずっとある訳だから。それで卒業後平壤に任官して、それから一度帰ってきて陸軍大学に入られた。陸軍大学で勉強して、これもまた優秀な成績だったはずだよ。そして、原隊復帰というので平壤に帰ったら間もなく終戦になった。

石井：終戦になってシベリアに連れて行かれちゃった。児玉：山口さんは、シベリアに抑留された時、同じ所に相沢さん(相沢英之・元大蔵省事務次官、元衆議院議員)がいて、お互いに励ましあって、がんばって生き延びて帰ってきたという仲だった。石：それが縁だったと言われてたよね。けれどもね、それほど向こうはその時のことを思っちゃいないと思うよ。山口さんはそう思ってるけど。児玉：そうでしょう。それが山口さんらしいんだよ。石：そう、山口さんらしい。児玉：でもね、山口さんが亡くなって、すぐ知らせがあったから、世田谷の自宅に弔問に行っただけでも。そしたら相沢さんが弔問をすませて出てきたよ、玄関口に。まだほとんど誰も行ってない時に、相沢さんがちゃんと来ておられた。石：そうか。だからやっぱり連絡は密だったんですね。

東京商科大(現一橋大)  
3年生

## ○秘書時代～燦々会

児玉：山口さんが宮崎輝というすごい実績を残したワンマン社長がいた時に、秘書をやっておられた。その頃、宮崎さんと渡辺恒雄さん(読売新聞グループ本社代表取締役会長)は、しばしば宴席をともにしてたようだけど。そうすると必ずその傍らに山口さんが秘書でついてくる。

渡辺さんから聞いた話だと、宮崎さんのようなワンマン社長の秘書は、1年か2年やると、皆勘弁してくれということでも勤まらない。さもなければ宮崎さんとウマが合わなくなって、お前はもう交代。こうなるのに、いつまでもこの2人の関係というのは続いている。それをずっと渡辺さんが見ていたわけよね。それで、これは宮崎輝が我慢して山口さんを使うことはありえないわけよ。だから山口さんが、きちんと宮崎さんのことをよく読んだ上で対応して、長年この2人のタッグマッチが成立したんだ。山口というのはすごい男だし、いい奴だよ。こうなってるものだから、渡辺恒雄さんと、山口信夫さんの関係は、ものすごく太い絆ができてますね。それがあったから、平岩さん(平岩外四・元経済団体連合会会長)がリタイアされた後は、燦々会(巨人軍を応援する財界人の会)会長は山口さん以外にはいないという事になったんですよ。

## ○総務部～住宅事業

石：山口さんは、全く総務部育ちでしょう。唯一やられたのは住宅事業があるんですね。児玉：そう、ヘーベルハウスね。旭化成というのは、それまでは肥料とか、普通の石油化学製品とか、それからサララップとか、家庭用のいろんな化学製品だよ。そんなのをやってたところへ、住宅をやるんじゃないかということになって、宮崎さんからの指示だと思うんだが、「山口、お前やれ」ということになった。今まで経験したこともない分野を山口さんが手がけて、それをかなり大きな収益部門に育て上げたんだよね。苦労がものすごく多かったということをおっしゃってたよ。

石：多かつたろうね。そう思うよ。児玉：家っていうのはね、やっぱり大変だからね。いろんなクレームが来るしね。ケミカル会社がやるとなるとね。今やもう確立したと思うけど。石：大きい部門になってるね。児玉：非常に大きな部門の一つになってる。ケミカルと住宅部門と、それから医療だね。腎臓の透析に使う器具とか薬とか、そういったものもやるから。まあ腎臓も、人工腎臓でもできるようになれば、変わるだろうけど、今のところは本当に透析をしないと生きていけない人が非常にたくさんいるわけだから。いずれにしても、まだ大所高所からいろいろ働いてもらいたかった人だったと思うんですよ。もったいないことだったなと思いますね。石：それは宮崎輝さんが元気な頃から、一歩引いて下へ仕えているから、意外と全部見通せる立場にいたからこそだろうね、山口さんは。特殊なところへおられた感じですよ、そういう面ではね。

○気遣いの人

石：確か、ホテルオークラのちょっと裏側のところへ、旭化成の寮があったんですよ。そこはずっとうちの酒を使ってたわけよ。そしたら山口さんがある日ある時、電話かけて来てね。「石井、あれなあ、悪いけど、うち」って言うから、「ああ、わかりました」って言ったんだよね。というのは、旭化成の傘下に富久娘酒造が入った。それで富久娘が入った以上、富久娘を使わないといけんから「いいかなあ」と言うから、そりゃあ当然ですわ言うて。うちは手を引かしてもらいますと言ってね。それで、港区の酒屋から納めてたのが、そこらへんも説明して。こういう訳だから、旭化成から注文があったら富久娘を持って行ってくれよと。だけどそういうことを、細かいところまでけっこう配慮するというか、心配りをする人だよ。普通だったら、しゃあせんよ、そんなことをね。第一、うちが入るとるか入っとらんかも、わかりゃあせん。児：普通ならね。石：だけどそういうことを、まあ恐らく入っとるというのはわからななだかも知らんけれども、「おい、酒何使うとるんだ」と言って、「おお、賀茂鶴か。それじゃあ、ちょっと断っとくから、富久娘を使え」言うて。東洋醸造と富久娘があそこの傘下に入ったからね。そういうところの心遣いというのは、細かい人だったよ。

○人柄に基づく経営の神髄

石：しかも我慢強いんだから。叩かれても強い人だし。だから社長でなくて会長へ行つた訳だよ。副社長にはなつたと思うけど。児：そう、副社長はもちろんやった。石：社長にはならなんだ。あの人ね。児：うん。旭化成ってのはね、私はまた縁があって、山口さんが会長であり商工会議所の会頭だった時に、3年前かな、社外取締役になされた。それで取締役会に出て、山口さんの、その会のコントロールの仕方なんか、最低月に1回は行って、間近に見てたんですけどね。宮崎流とは全く違うんです。石：違うよね。児：非常にフワーンと包み込んでいくのだけれども、絶対に筋は外さない。それから何かあっても、相手を納

得させるんだよね。もし意見が違った場合でもね。結局いろいろ話をしながら、最後は「やっぱり山口さんのおっしゃる通りですな」というところを持って行って、物事を決めていくという。そういうタイプだったですね。

児：今思うと、自分で天命を悟っておられたのかとも思うのだけれども。自分が会長もやりながら、会議所の会頭になっているわけでしょう。会頭を引いた後は、やっぱり一区切りだと思われたのだろうね。去年の6月末に、自ら会長を引いて名誉会長になられた。

新しい会長、社長の体制というのをいろいろ考えた末、新しい布陣を去年の6月の株主総会に提案して、決められた。それで9月には亡くなられたのですか



平成19年5月、旭日大綾章受章、奥様と

ら。だから、ずっといろいろなことを考えて、社内も円満に行くような人事体制を組まれた。しかも年齢的にはかなり若がえってるしね。大したものですよ。

会議所も終わり、会社のほうも新しい



左から児玉幸治氏(43回)、石井泰行氏(43回)

将来の布石を打って、そこで言うなれば大往生だったのでしようが、今更ながらやっぱりすごい人だなという気がします。\*\*\*\*\*かつて山口さんにインタビューに伺った時の柔和なまなざしを思い出しながら編集しました。

文責・編集：甲斐 稔(63回)

編集補：河本良子(63回)

\*\*\*\*\*

私が社会に出てからすでに長い歳月が過ぎ、その間、いろいろな経験を重ね、多くの苦労も味わいました。そこで今、回は、人生の先輩になれば、特に若い社員の一歩を逃げてみます。

一つは、真の友人を持つている人は幸せである、ということ。後事を託せるような親友が一人でもいたら、そんな素晴らしいことはないと思います。そのためにも、自分も相手にとって良い友人でなければなりません。

友人関係について、私はいつも「人にしてあげたことは十分に考え、人にしてもらったことは倍に考える」という人生を送りたいと心がけています。そうすれば良い人間関係が築けると信じているからです。

そしてその前提になるのが、お互いに相手が「信頼できる人」であるかどうかということ。私は、人の評価の中では、「信頼できる人」という評価をとても大事に考え、自分自身もそのような評価を得たいと、若い頃から努力をしてきました。

友人などからものを頼まれ、約束をして引き受けてはみたけれども、いざ実行してみるとなかなか難しい、ということがあります。大半は普通の努力をしますが、時には多くの時間を費やし、苦勞して頼んだあげく、結果として相手の希望に添えない場合があり、相手からは「約束をしたのに何でやってくれないのか」「他の人に頼めばよかった」といわれることさえありますが、このような苦しい時にも、言い訳をしないで我慢をして最善を尽くし、友情を守っていくことが大切だと思っています。どんなに努力をしてもなお達成できない場合でも、努力をする姿勢を貫いていけば、見る人は見ていてくれるもので、おのずからその人の人間性が決まってくる。

「あの人は引き受けたらとことんやってくれる。時には失敗することもあるかも知れないが、彼のことだから最大限の努力をしてくれたに違いない。彼がやってダメだったのだから仕方ない」と言われるような人、それが「信頼できる人」です。そのような人になりたいというのが私の人生の目標ですが、まだまだ半ばです。

(山口)

旭化成グループ社内報2000年6月号掲載記事「山口さんの部屋」より  
旭化成様のご厚意によりお写真4枚と、「山口さんの部屋」の記事を追悼集より転載させていただきました。

## 合唱班 第5回 定期演奏会

日時：2011年8月7日(日)  
 開場：14:30 開演：15:00  
 場所：広島大学附属中・高等学校講堂  
 曲目：生徒ステージ：パルドシエ作曲「リベラ・メ」、「証」、「聞こえる」他  
 OBステージ：「六つの子守歌」他  
 生徒・OB合同ステージ：フォーレ作曲「レクイエム」

## 管弦楽班 第35回 定期演奏会

日時：2011年8月7日(日) 開場：16:30 開演：17:00  
 場所：フェニックスホール(平和公園内)  
 予定演目：  
 ドヴォルザーク：交響曲第8番ト長調全曲、ドリーブ：バレエ組曲「 Coppelia」より「序奏とマズルカ」、ハチャトリアン：組曲「仮面舞踏会」より抜粋、その他  
 ※駐車場に限りがございます。出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

♪ 皆様、是非お越し下さい！ ♪ <入場無料>